

事例6 米国で実際問題となった組織COIの事例

組織と企業との経済的利益関係

大学：企業から寄付金を受け入れていた

組織COIによる弊害発生が懸念された場面（事例の概要）

- 大学Aの研究者Xは、大学Aに寄付金を拠出している企業Bの工場で働いている従業員の肺疾患の原因が、企業Bの工場の製造過程における「毛くず」であることをつきとめ、当該調査結果を論文として発表した。（企業Bは当該発表を阻止を図ったが、研究者Xは発表を行った）
- 大学は、企業Bに配慮し、研究者Xへ雇用止め（契約を更新せず）を通達。

組織COIとして指摘された点

大学が組織として企業から得ていた経済的利益（寄附金）が、大学の研究者による研究結果の公表にバイアスをかけようとし、また研究者の雇用に影響を及ぼした、と指摘された。

ポイント

大学等組織は、経済的関わりの深い企業に対しても、便宜等を図ることなく大学等組織の使命の達成に向け、常に公正かつ適正なバイアスなき判断を行うことが求められています。本事例のような経済的関係のある企業に対し配慮するような意思決定がなされないようにマネジメント体制を構築することが要請されています。

この事例は、米国の大学で組織としてのCOI問題として指摘された事例です
参考文献

- ・ David G. Kern, Robert S. Crausman, Kate T.H. Durand, Ali Nayer, Charles Kuhn III. Flock Worker's Lung: Chronic Interstitial Lung Disease in the Nylon Flocking Industry. Annals of Internal Medicine 15 August 1998 Volume 129(4) 261-272
- ・ 宮田由紀夫「アメリカの産学連携と学問的誠実性」（玉川大学出版部、2013）

